

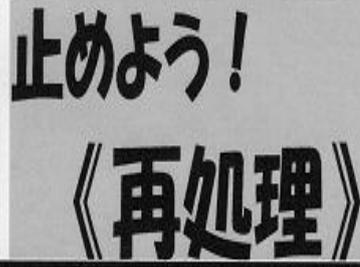
三陸の海を放射能から守る

岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理/岩手の環境》

http://sanriku.my.cocacn.jp/



《天恵の海》

2021(令和 3年)

12月30日

第227号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

資源エネルギー庁・東京電力

ALPS 処理水の処分基本方針説明会(盛岡)

長期保存:放射能減衰策は無視し 海洋放出の説明に終始!



疑問が
いっぱい

盛岡の説明会には、
経産省資源エネルギー
庁 廃炉・汚染水・処理

工能庁 廃水・汚染水・
処理水特別対策監や
東京電力
フェローら、来県



国・東電 漁業関係者・消費
者の説明者 者等市民参加者

十一月十八日、盛岡の県民
情報交流センターアイーナ
で、岩手県主催の、資源エ
ネルギー庁(以下「エネ庁」)
と東電による「福島第一原
発ALPS処理水に関する
基本方針説明会」が開催さ
れました。参加者は七〇名
ほどでした。翌十九日に宮
古市でも開催され、沿岸団
体など一二人が参加と報
じられています。盛岡市の
様子を報告します。

水特別対策監ら三氏、水
産庁海洋技術室長、東京
電力からは本社フェロ
ーら五氏が出席し説明
を行いました。

原発汚染水の浄化策 見通せず

内容は、以下のように
従来のマスコミ報道の
域を出ない、「海洋放出
策の正当化」に終始する
ものでした。

- ①事故原発の処理水は必要
に当たって二次処理を行い
六二核種と炭素14の放射
能を基準値以下に下げる。
- ②トリチウムは年間放出量
を二兆ベクレルを下回る
ようにし、海水希釈後の濃
度が一五〇〇ベクレル/リ
未満となるようにする。
- ③放出にあたっては第三者
機関の測定も含め公表する
そして、④希釈設備や取水
と放水の設備、モニタリン
グ施設を解説し、⑤風評
被害対策の説明があり、⑥
「海産物販路の開拓の支援
や地域や業種を限定せず計
算式に応じた損害額を支払
う」などと語りました。

会場からは海洋投棄 を危惧する意見のみ

一般参加者からは「廃
炉を急ぐあまり、海に放
射能を流していいの
か?」「なぜ、大型貯水

タンクなどを増設して
放射能減衰長期保存策
を取らないのか」などの
具体的な質問がありま
した。約四〇分ほどの質
問時間の会場からの発
言は海洋投棄に対する
危惧の声ばかりでした。

会場からの発言



◇六年間、放出ありきの 審査。

二〇一八年八月の公聴
会で廃液の長期保管の
意見が出されたが、実際
の審査は長期保管を形
だけの審査で済ませて
いる。

◇処理水の貯蔵を継続 すべきだ。

トリチウム半減期の一
〇倍(二三年)で放射能
は七〇〇ベクレル/リ
ほどに低減する。なぜ長
期保管ができないのか。

◇この問題は日本学術会議 に諮問をいのか?

核廃棄物最終処分問題
とILC問題は学術会
議に諮問され提言があ
った。何故、この問題は

諮問しないのか?

◇玄海原発ではトリチウ ムが原因と考えられる 白血病被害が出ている。

予防原則に立ち長期保
管を考えてほしい。健康
被害は数年、数十年後に
出て、その因果関係は不
明とされる。

◇廃炉のフェリを本当 に取り出せるのか。

高レベル廃棄物のデブリを
どこに保管できるのか。作
業の進捗はどうか。

以上の質問・意見に対
して、説明者からは再度
海洋放出を見直すことす
るような回答は全くな
く会場の意見を聞く姿
勢は見られず、海洋放出
ありきの説明会でした。

一般参加者の声

盛岡市内の消費者で
すが、岩手の温泉等観光
に訪れる人達も、目的の
一つは三陸の海の美味
しい料理。その食材が放
射能で汚されるのは困
る。説明会では「有機ト
リチウムの内部被ばく」
や「生物の食物連鎖」と
いう言葉さえなかった。
せっかくの来県なのに、
聞きたいことが聞けず
残念でした。

科学的に不明

トリチウムの内部被曝の危険性

各国のトリチウムの濃度限度値はバラバラ

来県の説明者はトリチウムの原発からの濃度規制基準値は六万ベクレル/リットルだが、福島事故「処理水」についてALPSではトリチウムの除去は不可能なので、海水で薄めて基準値の四〇分の一の一五〇〇ベクレル/リットルとするというのです。トリチウムは放射線を出す放射性物質ですから

被ばく被害防止を前提に扱うべきです。

図1のように、世界各国の「飲料水のトリチウム濃度限度」は、一〇〇〜七万六一〇三ベクレル/リットルと著しく散らばっている現状です。このことはトリチウムを体内に摂取した場合の危険性が、科学的に未だ解明されていないことを示しています。エネ庁説明資料ではEUのトリチウム濃度限度値が、「一〇〇ベクレル/リットル」であることを隠していました。

トリチウムのバックグラウンドは〇・ニベクレル/リットル

図2のように、海水のトリチウムのバックグラウンド（自然状態の海水）が〇・一〜〇・二ベクレル/リットルであることは、文科省委託調査（「漁場を見守る」平成二〇年版より）からわかります。日本では原発からのトリチウムの濃度限度が六万ベクレル/リットルとされ、福島原発事故処理汚染水は一五〇〇ベクレル/リットルとされていますが、このバックグラウンドの高い方の〇・二ベクレル/リットルで計算すると原発

排水は三〇万倍、福島事故「処理」水は七五〇〇倍です。再処理工場からの廃液には、放出水の「濃度規制値」はなく垂れ流し状態です。このような高濃度の汚染水を海洋へ放出すると海洋生態系へ大きな負荷をかけることは明白です。

図4 ストロンチウム90の除去率

核種名	規制基準値を1とした場合の値	
	再浄化前	再浄化後
コバルト60	0.18	0.0017
セシウム137	6.7	0.0021
ストロンチウム90	2155	0.0012

トリチウムは 遺伝子に悪影響の恐れ

説明者からは、豊かな三陸の海の生物に関わる問題なのに、海の「生態系」や「食物連鎖」などの言葉が生まれませんでした。問題とされるべきは、トリチウムが海の

動物の生理にどのような影響をもたらすかです。トリチウムは水素と同じ挙動をする元素であるからこそ、水として海に放出されると、海

発生廃液のストロンチウム90は約六・五万ベクレル/リットル。図4は汚染水除去装置ALPSの性能についてですが、ストロンチウム90は基準値（三〇ベクレル/リットル）の二一五五倍で約六万五千ベクレル/リットルです。その汚染水を再浄化すると基準値の〇・〇〇一二倍まで浄化されることになり、濃度は〇・〇四ベクレル/リットルです。二回目の除去で濃度が一回除去汚染水の九九・九九七%まで除去されることになり、他の二核種と比べても考えられない高性能の除去率です。実際にこのようなことがあり得るのか甚だ疑問です。

図1 各国のトリチウム基準値

エネ庁 ホームページより
飲料水のトリチウム濃度限度 国際比較 (Bq/リットル)

EU	100	スイス	10,000
アメリカ	740	WHO	10,000
カナダ	7,000	フィンランド	30,000
ロシア	7,000	オーストラリア	76,103

(出典) 柿内秀樹 日本原子力学会誌 Vol:60

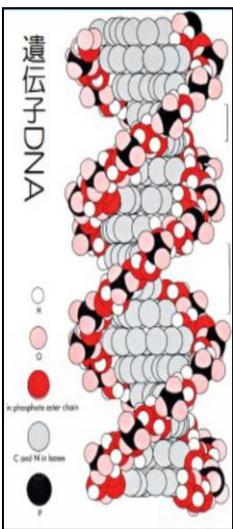
図2

文科省パンフレット『漁場を見守る』平成20年度版より

平成20年度 海洋環境放射能核燃料サイクル施設沖合海域の概容
平成20年10月30日
文部科学省原子力安全課

海水のトリチウムについては、今回の測定値は0.0076〜1.3ベクレル/リットルであった。なお、通常海域の海水中のトリチウム(H3)のバックグラウンド*は、約0.1〜0.2ベクレル/リットルである。

図3 DNAの水素と、トリチウム



赤い球が炭素。白い球が水素で、トリチウムと置き換わるわけです。水素と同じ性質を持つトリチウムが体内へ摂取され、細胞の遺伝子レベルまで入り込むと、DNA情報が被害を受けます。それはベータ線による被害と、トリチウムが最終的にヘリウムになることによる結合の切断、の二つです。

2021. 5, 30 河田昌東氏講演会の報告。
[ada686_6919e4befff6420299139f](https://www.usfiles.com/a8a737c185.pdf)
[a8a737c185.pdf \(usfiles.com\)](https://www.usfiles.com/a8a737c185.pdf)

図3は遺伝子レベルまで達したトリチウムの被害を考察した講演からです。トリチウムは水素と同じ挙動とは言ってもあくまで「放射性物質」ですから、体内からの放射線被曝が起こります。被害が現実となる以前に、トリチウムの海への放出は止めるべきです。